

国有林のクリーン活動

国有林内における廃棄物の不法投棄は増加傾向

2月24日、小瀬田集落に隣接する国有林において、屋久島森林管理署主催のクリーン活動が実施されました。

国有林内における廃棄物の不法投棄については、投棄物の撤去が新たな投棄に追いつかない状況にあり、処理費用の負担を消費者に義務づけた家電リサイクル法の施行（平成13年4月）以降において増加傾向にあります。そのため、不法投棄の未然防止を強化す



大量の廃棄物



回収された多様な廃棄物

る活動の一環として屋久島森林管理署では、水源地、景勝地、海岸林等において、地方自治体や地域住民らによるボランティアと一体となった清掃活動、「クリーン活動」を実施しています。

当日は、当署職員をはじめ、屋久島町役場、林業事業者、建設会社、区のボランティアの方がた、総勢40人余りでの活動となりました。林内からは、かなり以前に投棄されたとみられるビンや缶、生活用品等の廃棄物が山のように回

収され、予想以上のゴミの量に、参加者からは、ため息と驚きの声があちこちで聞かれました。家の庭のように身近でありながら、国民共通の財産である国有林。ゴミのない、きれいな森であってほしいと願うばかりです。

国有林野事業、一般会計化の下 新たにスタート

昭和22年の林政統一以降、特別会計制度の下で国有林の管理や木材の供給などに貢献してきた国有林野事業は、昨年の第180回国会で成立した「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律」により、平成25年4月1日から、一般会計の下で新たにスタートしました。

これに伴い、公益的機能の一層の発揮や森林・林業再生への貢献など国有林に求められる役割を十全に発揮するため、林野庁や九州森林管理局の内部組織が再編(図1参照)され、屋久島森林環境保全センターは改組し、主として世界遺産地域や森林生態系保護地域をフィールドにした生態系の管理などを行う「屋久島

屋久島の植物



アキグミ (グミ科)

全国に分布する落葉低木。屋久島では低地の路傍や林縁・荒地に多い。春に黄白色の花を多数付け、遠くからでも明るく見える。名前は、秋に赤い果実が熟すことから。
 花期 4～5月
 果期 11～12月

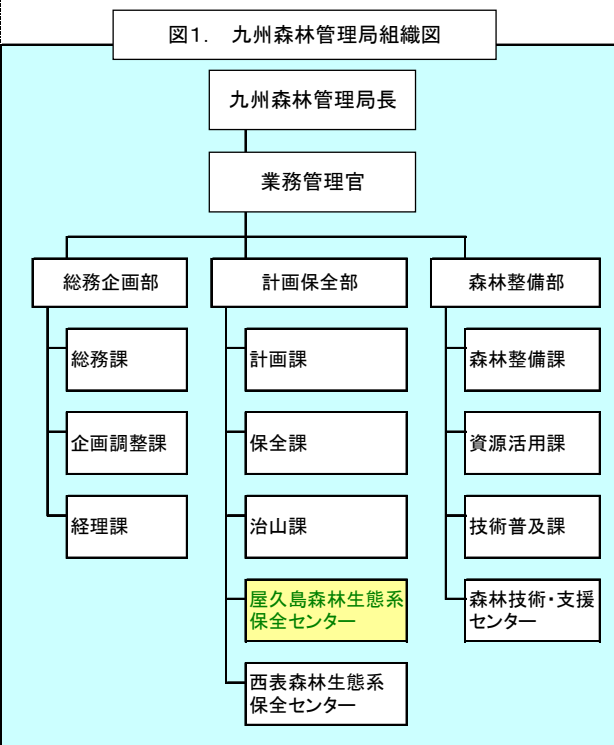


新名称の看板

森林生態系保全センター」として新たにスタートしました。今後、国有林野事業は、「公益重視の管理経営の一層の推進」「森林・林業再生への貢献」を大きな柱として、一般

会計としての新たな体制で「国民の森林」である国有林の管理経営に取り組んで行くこととしています。

図1. 九州森林管理局組織図



屋久島生態系モニタリング

屋久島西部地域における ヤクタネゴヨウ生育調査（平成21年度）

**ヤクタネゴヨウ群落調査④700mプロット

[プロットの状況]標高 700m 地点から南側に張り出した小尾根上に設定。プロットは健全なヤクタネゴヨウ巨木の根元に基点を設定していたが、今回このヤクタネゴヨウが枯死（風衝による立枯れ）。このヤクタネゴヨウの根元から南西側は高さ 10m の崖となっていて、地形的に海から吹き上げてくる強風をまともに受けていた。当該プロットの近辺には、ヤクタネゴヨウの古い切株があり、また胸高直径 50cm 以上の照葉樹の大径木が出現しないことより、古くからの人為的な関わりのあった照葉樹二次林的要素の高いヤクタネゴヨウ群落である。

[5年前との経年変化]前回と今回のプロットは、同一箇所であり、林分構造（階層構造や林分の発達段階等）はほとんど変わらない。前回優占種のタイミンタチバナが減少し優占種がサクラツツジに変化。また、草本層の優占種は前回のヨゴレイタチシダからウラジロに変化。亜高木層の一部は成長して第2高木層へと移動し、第2高木層の植被率の増加が顕著であった。なお、全体の種数は変動していないが、本数は減少していた。このプロットは、顕著な風衝地形で、風衝枯死や風倒木、梢端折れ木が第1高木層優占種のヤクタネゴヨウや第2高木層優占種のイヌノキで見られた。しかし、亜高木・第2高木層の樹冠自体は旺盛に成長していて、その影響で、林床が貧栄養土壌から照葉樹の腐葉土（落葉腐植層：リター層）が厚く堆積した土壌へと変化しつつあった。また、林床への光の到達が遮られ、林床は暗く、ヤクタネゴヨウの実生苗の生育は見られなかった。

ての体験で楽しくできたこと
児童の皆さんからは、はじめ
本立て」が完成しました。
れいにみがい「世界に一つの
きあがり、最後に紙やすりで
り悪戦苦闘しながら板に線
かたり、釘打ちではみだした
設計図を見ながら板に線を引
き、ノコギリでまっすぐ切れな
用について話をした後、さつそ
く木工にチャレンジしました。
当日は、県の担当者が木材利
木工体験を行いました。

神山小学校で木工体験

2月20日、神山小学校の4・

5年生を対象とした鹿児島県熊
毛支庁林務水産課主催の森林環
境教育に協力し、本立て作製の



本立てを組み立てる児童

今後、屋久島森林管理署や
関係機関との連携した森林環境
教育に取り組んでいきます。

満足した感想をいただきました。

屋久島森林生態系保全センター 平成25年度業務予定

1 森林生態系保護

(1) 地域推進対策

- ①旧天然生林管理水準確保緊急対策事業（GSS）
 - ア 森林保護員の雇用によるきめ細かな保護管理等
 - イ 入込利用者への指導・啓発
- ②旧森林生態系保護地域バッファゾーン整備事業等
 - ・ 縄文展望デッキの改修整備に関する業務等

(2) 保護林等整備・保護対策

- （旧世界自然遺産保全緊急対策事業）
- ア 屋久杉の樹勢回復措置（縄文杉他著名杉）
- イ 生態系モニタリング調査
 - （屋久島南部植生分布調査・局）
- ウ 荒川登山道周辺人工林のあり方検討（局）
- エ 外来種アブラギリ、カシノナガキクイムシ被害状況等モニタリング
- オ 縄文杉腐朽大枝の安全確保対策
- カ ヤクタネゴヨウ保護林設定準備業務（局・署・センター）

(3) モニタリング

- ア 雨量観測
- イ 写真映像による調査
 - （環境省との共同調査について実施）

(4) その他

- ア 森林生態系地域等の森林パトロールを実施
- イ 縄文杉 Web カメラの管理（保守）
- ウ 縄文杉歩道及び縄文杉デッキのあり方検討（局・署・センター）
- エ シカ対策関連業務、局委託調査協力、有害鳥獣捕獲等
- オ 世界遺産登録20周年記念事業の検討、実施

2 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林教育等の実施（他機関等との連携・協力）
- (2) 自然休養林内等での指導・パトロールの実施
- (3) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導
- (4) シカ柵の保護管理等

3 その他

- (1) 関係機関との連絡調整
- (2) 学術調査研究等に係る入林手続きの接受及び指導等
- (3) 広報紙「洋上アルプス」の発行及び年報の作成
- (4) ホームページの更新
- (5) 資料の整備・拡充

